

資料2) 体罰はなぜいけないのでしょうか

体罰は声明文に記載したように動物福祉を侵害する行為だからです。一方で多くの場合に、体罰を与える人にとっても精神的負担がかかる行為です。

加えて、体罰は以下の1~8に挙げるような側面を併せ持っています。これらのことから、体罰は飼い主と家庭動物との間の信頼関係を損ねる可能性の高い行為です。

1. 体罰は継続によって強度が増してしまう傾向があり、最終的に心身の障害を乗り越えて動物の生命を奪う危険性があります。
2. 動物は体罰を与える人、近くに存在する他者・動物・物などに対して強い恐怖心を抱くようになることがあります。
3. 動物は体罰を避けるために攻撃行動（先制攻撃）を示すことがあります。
4. 恐怖・不安などの情動が関与する問題行動*の抑制に体罰を用いると、問題行動が悪化することがあります。
5. 体罰を攻撃行動の抑制に用いると、逃げる、唸る、吠えるなど咬む前に示すはずの行動が消失し、突然飛びついて激しく咬みつくなどといった避けられない深刻な攻撃行動を示すようになる可能性があります。
6. 体罰による問題行動の抑制効果は、一時的で継続する可能性が低く、問題行動がのちに再発してしまうことがあります。
7. 体罰による問題行動の抑制効果は、体罰を与えた人に限定されがちで他者に波及しないことがあり、体罰を与える人が存在しない状況下では効果がみられないことがあります。
8. 体罰は、動物に何を行えばよいかという学習をさせることはできず、動物が葛藤を生じることにより他の問題行動を引き起こしてしまう原因となることがあります。
動物の気質によっては、自発行動を全く示さない「学習性無力」の状態を引き起こす原因となることもあります。

*問題行動とは、飼い主またはその動物と関わる人たちが問題と感じる行動、あるいは人間社会と協調できない行動と定義します。